会　議　録	令和４年７月20日作成	令和８年３月末日廃棄

会議名	京都府下鴨警察署協議会（令和４年度第１回）
開催日	令和４年６月30日（木曜日）
時　間	午前10時35分から午前11時55分までの間（80分）
場　所	京都府下鴨警察署　道場
出席者	松本会長、岩渕副会長、種田委員、川西委員、寒河江委員、三浦委員 竹中委員、鞍谷委員、近藤委員、小山委員 （欠席　渡邉副会長、長谷川委員、安達委員）　計10人 --- 署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長 交通課長、警備課長、広聴相談係長　計10人
諮　問 事　項	交通死亡事故抑止対策について
会　議 内　容	1　会長挨拶　司会　副署長 2　新委員挨拶 3　署長挨拶 4　各委員による自己紹介及び警察署幹部紹介 5　協議　司会　会長 諮問事項説明 交通死亡事故抑止対策について～交通課長 【委員】見せてもらったＤＶＤの教材の中で交通事故で亡くなった方のご遺族のお話や、交通警察官の体験談等はリアルで、改めて交通事故の悲惨さを感じ、残されたご遺族の心中は計り知れなく胸が締め付けられた。免許更新時における講習の際、このような教材等を紹介していただくと安全運転の大事さ、無謀運転は事故につながることを改めて痛感させられる貴重な講習になると思う。是非短時間の講習の方に対しても教示していただきたい。 【警察】講習の中で可能な限り、教養の場を設けていきたい。今回使用したＤＶＤについては、今後、老人福祉センター、病院等の施設において、広く皆さんに交通事故の現状を訴えていこうと考えている。

会　議 内　容	【委員】痛ましい事故の映像を見て、改めて交通事故の怖さを身にしみて感じた。私は登下校時の交差点において児童の見守り隊を行っている。子どもは信号を守り、安全確認して横断する。信号を無視して横断する子どもはほとんどいない。親に連れられて通学する子どもの場合、子どもは点滅信号で止まるが、親はまだ間に合うとして、子どもを引っ張り小走りで横断する。子どもの前で親に恥をかかせたくないため注意は控えている。結局、大人が交通ルールを守り、模範を示すことが大事と感じている。信号をカウントダウンして横断する子どももおり、ゲーム感覚で物事を考え、安全確認がおろそかになる場合がある。子どもの特性を理解し、子どもの横断を注意して見守っていく必要性を感じている。 【警察】委員のご指摘もあったが、大人の運転マナー、特に高齢者の運転マナーが悪いと感じている。対策として自転車対策、高齢者に対する交通教室等を強化している。特に自転車対策では、電動のキックボードの位置付けが、原動機付き自転車なのか小型特殊自動車、自転車なのか不明な点が多く、しっかりと教養していきたい。 【委員】公共交通機関に従事する者としては「交通事故防止」は永遠の課題であり、いかにして交通事故を減らすか、起こさせないかについて常日頃から事故の発生状況を分析し、事故の当事者である運転者にも原因を自己分析させ、事故から自らが学び、事故を防ぐために何が欠けていたのか、考えさせることこそが交通事故の抑制につながるとして、日々運転手に対して安全教育として声掛けを行っている。 【委員】私自身、交通事故を経験しており、自転車の運転マナーの悪さを感じ、しっかりとした交通法規を知っているのかと考えさせられる。小学校やその他の学生は交通教室を受ける機会があると思うが、一般社会人は自ら勉強することはなく、学習する機会が乏しいため、そういう時間も大事だと思う。 【委員】私の住む学区では下鴨署員が学校を訪問し、小学４年生、５年生を対象とした交通教室を炎天下の中であるにもかかわらず、熱心に細かくご指導していただいた。受講した小学生が今後の生活の中で正しい交通マナーを反映できればと切に思う。大人の自転車のマナーが悪い上、電動自転車の使用も多く、走行速度がますます速くなっていることから、これら大人に対する指導も必要と考える。 【委員】私の子どもが運転免許を取得した際、講習で交通事故の悲惨さ、交通事故の怖さについて紹介がされたようだ。その結果、安全運転の必要性を改めて感じている。良い講習を受けたことは喜ばしい限りだ。安全運転教養には、悲惨な交通事故の状況を紹介することも必要と感

会　議 内　容	じた。 【委員】免許を取得して50年になる。自転車が、歩行者なのか車両なのかしっかり認識していない人が多いと思う。あるときは横断歩道の真ん中を通る。あるときは決められた車線を通る。自転車の通行禁止ゾーンや時間規制もあるため、自転車に対する指導取締りもお願いしたい。 【警察】自転車は車両である。自転車横断帯が歩道に併設して設置されているが、自転車横断帯が併設されている交差点は、自転車横断帯を通行しなければならず、極めていびつな、カギ状走行をしなければならない。全国的に自転車横断帯の撤去が進められている。自転車の位置付けについて周知を徹底していく。 【委員】交通事故抑止に対して、警察は様々な観点から安全教育を図り、指導取締り等対策を講じていることが分かった。各委員の意見のとおり、自転車のマナーが悪いのは、学生の私も実感している。速度超過による危険運転、イヤホンで音楽を聞きながらの「ながら運転」、人と人との間をすり抜ける無謀運転など大事故につながることも懸念される。自転車に対する指導取締りも大事と考える。周りの友達も運転免許を取得する人が増えている。今日教えていただいた事を機会あるごとに伝えていく。 【委員】最近、楽だろうと思い、サイズの大きい靴を買って車を運転したところ、アクセル、ブレーキ操作に違和感を感じ、アクセルとブレーキの誤操作が起きてもおかしくないと思い、同時に恐怖を感じた。改めて運転する際の服装等にも注意が必要だと感じた。 【委員】ＤＶＤの教材を見せていただき、改めて交通事故の悲惨さ怖さ、命の尊さ、安全運転の大事さ等、心に残った。決して他人事でなく、身近にあることを感じた。 　子どもは交通ルールを守っているが、高齢者の方で、赤信号なのに横断している人や、緑地帯の中央分離帯に横断しようとする人を見かけることがある。いつ飛び出しがあるかもしれないなど、常日頃から注意して運転することが必要と感じている。また、焦る心が事故を呼ぶため、余裕のある運転が大事と考えている。 【警察】高齢者に対する交通対策には、大きく分けて加害者となるケース、被害者となるケースの二通りがある。被害者となるケースとして「反射材の活用・普及・マナーを守る」等の教養を実施している。加害者となるケースについては、加齢による運転操作のミス、反射神経及び判断能力の鈍化が事故につながるケースを紹介し、対策を教養している。軽い認知症を患って免許取得している方もあり、認知機能検査を受けた結果により、運転免許証の自主返納等を推進している。認知症

会　議 内　容	が更に進むと、運転免許証を返納しても「免許取得の記憶」が残り、返納したことを忘れ、無免許運転につながることも危惧されるため、自主返納については本人のみでなく家族等周囲も理解し、車両の売却、二重のハンドルロックの措置等により、物理的に運転ができない環境作りを行うことも重要だと考えている。 　本人はもとより家族等周囲の温かい見守りが最も大事であることを感じている。高齢者を事故の被害者とさせない、加害者とさせないため地道な活動を推進していく。 　引き続き交通事故抑止対策として、様々な啓発活動を推進していくことからご理解とご協力をお願いしたい。ご意見等があれば検討し業務に反映していくことから、引き続きよろしくお願いしたい。 6　事務連絡 令和４年度第２回下鴨警察署協議会は、９月中旬実施予定とする。 以上

第１回京都府下鴨警察署協議会の開催状況